

## 1 研修概要

- ①目的 都内の認知症サポート医等のスキルアップ及び活動の促進を図る。
- ②実施 認知症支援推進センター（都からの委託に基づき、独立行政法人東京都健康長寿医療センターに設置）

## 2 変更点

新たに地域活動（認知症検診、認知症カフェ等）に関する講義や多職種連携のあり方や連携の中での認知症サポート医の役割について検討しあうグループワーク（事例検討）を取り入れる。

## 3 令和4年度以降のカリキュラム（案）

	第1回	第2回	第3回	第4回
テーマ	認知症サポート医の役割	研究の最前線	認知症診療の アドバンスドスキル	グループワーク (事例検討)
ねらい	認知症サポート医に求められる役割の理念について理解し、実際の活動の広がりの可能性についても考える。	現状の認知症研究の成果を知り、認知症医療・ケアが目指す方向性の潮流を知る。	明日からの日常診療に取り入れられる知識を習得し、診療技術の向上を目指す。	多職種連携のあり方と、多職種連携における認知症サポート医の役割について考える。
1 コマ目 系統的な学習プログラム (60分)	<b>1) 認知症サポート医制度の根本にある理念を定期的に再認する</b> 数年に1回は根本に立ち返り、「認知症サポート医とは」という本質を、本制度ができた背景から取り上げる。  <b>2) 他地区の活動を知る</b> 認知症サポート医の活動の好事例、先進的な取り組みを行っている地域からの活動報告を取り上げる。（検診やD-cafeの活動を含める）	<b>1) 予防（早期診断早期治療）</b> ①創薬 ②画像診断 <b>2) 共生（共創）</b> ③Dementia Friendly Communityの創生	<b>1) 最も狭義の認知症診療</b> 認知症と誤診される/認知症が見逃される精神疾患/精神症状の鑑別、BPSDへの支援（非薬物療法・薬物療法）、身体合併症医療（終末期医療を含む）、口腔保健など。 <b>2) ケアへの関わり</b> 家族介護者への関わり、独居認知症高齢者への関わりなど。 <b>3) 権利擁護への関わり</b> 成年後見制度（診断書の書き方を含む）、虐待・経済被害事例への対応、ACPなど。	<b>1) 多職種連携がなぜ必要なのか考える</b> <b>2) GWを通して、他の認知症サポート医の多職種連携の実践に触れる</b>  社会的困難（家族の課題、地域社会のなかの孤立の課題、虐待や経済被害などの権利侵害の課題）と身体合併症の課題を併せもつ認知症者への、多面的支援の必要性を考えられる症例を提示し、事例検討を行う。
※講義テーマ案 (いずれか一つを取り上げる予定)				
2コマ目 臨床お役立ちコンテンツ (30分)	認知症サポート医を対象としたアンケートにおいて「どこに何を相談したらよいか分からない」「BPSDの非薬物療法にどのようなものがあるのか分からない」「向精神薬の使い方が分からない」等、日常診療に関連する研修需要が把握されている。それらに応えるコンテンツを提供。			